

# ちよつと得するドラッグストアの話

英語英文学科 梶山 紫

調子が悪い時、ドラッグストアに行って、あまりの薬の多さに驚いたことはないだろうか。

成分を見たところでどんな効果があるのかよくわからずに、結局コマースシャルでよく見るおなじみのものや、一番目につく位置に置いてあるものを手にとってしまったたり、対面販売の時は、隅のほうに気になるものがあったり、見せてくださいと言って良いのかわからず、何も買わずに帰ってしまったたり…。国の政策としての医療費削減によって、セルフメディケーションが注目を浴びる昨今、そんな貴方に薬選びの賢い方法を紹介したいと思う。

## 1. 勇気を出して話しかけよう。

薬を買うのに一番手っとり早い方法は薬品取扱いかウンターに立っている従業員に聞くこと

だ。薬業界で『OTC医薬品』と呼ばれている薬品に関しては医薬品のプロフェッショナル達に症状を告げることによって、適した薬を紹介してもらうことができるし、服用についての相談にものってもらえる。この「医薬品のプロフェッショナル」こそ、薬剤師と登録販売者である。

### ●薬剤師って？登録販売者って？

薬剤師と、登録販売者はどちらも医薬品販売ができる公的資格を持っている専門家である。しかし、薬剤師はともかく、「登録販売者」という言葉聞いてすぐわかる人は少ないのではないだろうか。この二つについて簡単に説明したいと思う。まず、薬剤師は大学の薬学部で学び、薬剤師の国家資格を取った人ある。一方、

登録販売者とは、都道府県の試験に合格した販売資格者であり、これの受験資格は実務経験の基準があるだけである。一年間決められた時間をドラッグストア等で働けば、極端な話、私たちのような薬学とは縁遠い学生であっても、受験することができるのである。

とは言え、一瞥しただけでは、その人が何の資格を持っているかはわからないと思うかもしれないが、これを一瞬で判断する方法がある。わかりやすいように、薬剤師は裾の長い白衣、登録販売者は短い白衣（但し、色やデザインは各社によって異なる）を着用することが暗黙の了解となっているのだ。全ての会社に問い合わせたわけではないが、見る限り殆どのドラッグストアチェーンでこの制度が採用されている。

●薬剤師にしか販売できない薬って？

ドラッグストアには薬剤師にしか販売できない薬がある。それは『第一類医薬品』と呼ばれるものである。OTC医薬品は危険度や、使われている成分によって3つの段階に分けられている。医薬品の中でもリスクが少なく比較的、安全に長い期間使用され続けられてきた医薬品を『第三類医薬品』と呼ぶ。一部のビタミン剤や、目薬等がこれに分類される。次にまれに軽度の副作用などが起こす成分が含まれるが消費者が使い慣れている医薬品を『第二類医薬品』に分類する。多くの風邪薬や、鎮痛剤、鼻炎薬、胃腸薬などがこれに分類される。そして最後に薬剤師しか販売できない『第一類医薬品』である。使用方法によって重度の副作用が生じることがあり、消費者がまだ扱いに慣れていない薬品がこれに分類される。そう聞くとどんな恐ろしい薬や、マニアックな薬が出てくるのかと思うかもしれないがそうとも限らない。代表的な例をあげると、ガスター10である。CMで目にすることも多い商品であるが、その最後に『薬剤師から説明を受け、使用上の注意をよく読んでお使いください』というフレーズがあるのに気付いただろうか。これらの第一類医薬品は薬剤師が管理する鍵付きのガラスケースの中に陳列

されていて、消費者はもちろん、他の従業員ですらも自由に触れられないようになっていいる。もちろん、ハイリスクな面もあるが、医療用成分が使われていることもあり、抜群が良い。また、長い間、事故が起こることもなく、消費者が扱いに慣れてきたな、という時期になると、一類から、二類に変更されることもある。

かつて、医薬品販売におけるルールは無かったが、平成21年に改正された薬事法により、第一類医薬品以外にも、すべてのOTC医薬品について、専門家が質問・相談にのることが義務付けられた。購入時だけでなく、購入後の相談も受ける事ができる。白衣を着ていない一般従業員でも、売り場や商品の案内をしたり、専門家に取り次いだり、補助業務ができることとなつているため、気軽に店員に声をかけてみると良いと思う。

2. ジェネリック医薬品を取り入れよう

次に薬を選ぶ時に金銭的に得をする裏ワザを紹介したいと思う。それは、黒柳徹子のコマースナルなどで知名度を上げているジェネリック医薬品を買うことである。ジェネリック医薬品とは、後発医薬品のことであり、発売開始

から一定期間が経過し、特許が切れた薬を他の会社がほぼ同じ成分で違う名前を使い、元の商品より安い値段で発売している薬のことである。要は、言い方は悪いが、合法的なパクリ商品なのである。更新された保険証と共に、ジェネリック医薬品希望カードが届いた時に、ジェネリック医薬品の存在を知った人も多いと思うが、処方された薬だけではなく、ドラッグストアでもジェネリック医薬品が買えるということ。ジェネリック医薬品は広く知られてはいないようだ。ジェネリック医薬品を活用すると、少なくとも20%オフ、物によっては2000円以上浮かせることもできる。これは利用しない手は無い。

●どんな薬のジェネリック医薬品があるの？

薬売り場などの薬のジェネリック医薬品が発売されているのか知らないまま行っても、その店の薬剤師に先発医薬品を紹介されたら、損していることにも気付かないまま買ってしまうだろう。基本的に、開発後20年間が経っている医薬品は特許が切れているため、他社が同じ成分を使い販売しても問題ない。特許が切れている有名商品の具体例を挙げると、エスタックイブ、アリナミンEX、EVE、ザ・ガード等である。そして、有名定番商品であるバファリン

も特許切れに伴い、ジェネリック医薬品が新たに出回り始めた。これらの医薬品はそれぞれのドラッグストアの系列ごとに提携している製造会社が違うため成分が同じでも違う名前でも販売されているのでわかりにくいかもしれない。店頭のプロップに『比べてみてください』という矢印が貼ってあったり、〇〇と同成分です！と書いてあったりするのでそれを手がかりにしてみたい。

### ●何故あまりジェネリック医薬品が売れていないの？

米国ではジェネリック医薬品が全体の医薬品の売り上げの70%以上を占めているにも関わらず、日本では2割程度でしかない。何故、日本では受け入れられづらいのだろうか。その理由はいくつか考えられるが、まだ、世間的にジェネリック医薬品が信頼されていない、というのも理由の一つだと思う。元々認可されている薬と主成分が同じという理由から、ジェネリック医薬品が商品として販売されるに至るまでの過程は新薬と比べて非常に少ない。そのため、医療関係者の中からもジェネリック医薬品を批判する声が挙がっている。また、ホメオパシーの一件で注目を浴びた『プラセボ効果』が逆に

作用するということもある。プラセボ効果というのは、偽物の薬を「これはよく効く薬ですよ」と言われて投与され続けると、何らかの改善が見られるというものだが、この場合、実際はその症状を改善する作用があるのにも関わらず、怪しい薬だと思いがち患者が飲むと、効果が薄れたり、全く効かなかったりすることがある、ということだ。このケースは特に年配の方に多いようだ。

また、もっと重大な問題として、元来の薬と主成分は同じでも他の添加物が少しずつ違うことによって、飲み合わせに問題が生じる事もある。しかし、医療用の薬ならともかく、ドラッグストアで取り扱っているレベルの医薬品でそこまでの違いが起こることは滅多にない。そのため先に挙げた問題がやはり一番のドラッグストアにとっての課題だと思う。

病は気の持ちようだ、とまでは言わないが、新薬にしる、ジェネリック医薬品にしる、100%の効果を発揮するためにはその薬を信じる事も大事だと思う。その薬を信じるという事はすなわち、その薬を紹介した、薬剤師や登録販売者を信じるという事に繋がると思う。やはり、疑問点があればその都度確認して、納得し

てから購入するというのが結局のところ大事なのだと思う。

余談だが、個人的にはジェネリック医薬品が売れないのは、その安っぽいパッケージと、胡散臭い、元の商品名を意識しまくりの商品名のせいで、より一層インチキ商品のような雰囲気が出ていて原因だと思う。せっかく広告費・開発費を抑えているのだから、パッケージぐらい気を使って、もう少ししゃれこんだ名前をつけたらどうだろう、と一人の消費者として思ってしまう。ともかくにも、ジェネリック医薬品を上手く利用して、セルフメディケーションを上手く実現してほしいと思う。

そんなわけで、今回は薬局での薬の選び方について紹介してきたが、最後に筆者が独断と偏見で選ぶ2011年・春のドラッグストア一押し商品を紹介したいと思う。

### ●医薬品部門

#### 1位 ロキソニンS

市販薬で初めてロキソプロフェンという医療成分を配合した痛み止め。日常生活に支障が出るほどの頭痛や生理痛を素早く抑える。又、眠くなる成分を含まないので、日中にも使うこと

が出来る。第一類医薬品であるため、薬剤師に相談の上、使用してほしい。

## 2位 サジデン

アレルギー反応を抑える医療用成分配合鼻炎薬。花粉症やハウスダストなどによる症状を軽減してくれる。この薬は以前から販売されていたのだが、敢えてこの商品を注目商品として紹介したのは、今まで第一類医薬品として販売されていたのが、今年、第二類医薬品に変更になってためである。例年の5倍以上の花粉が舞う今年、この薬が活躍するのは間違いない。ちなみにこの商品のジェネリック医薬品も販売されているため、店頭で確認してもらいたい。

## 3位 リアップ

大学生に向けた記事で取り扱うのは適切かどうか判断しかねるが、第一類医薬品界を牽引する医薬品としての呼び声が高い、リアップを3位として紹介したいと思う。育毛剤は多数あれど、発毛剤は現在これしかない。今後他社から追隨する商品が発売された時にどのように発展していくのが楽しみな製品である。

## ●ビューティー&ヘルス商品部門

## 1位 オバジシリーズ

「自肌力を呼び覚ます」をキャッチフレーズとした人気スキンケアシリーズ。アメリカの皮膚科医オバジ氏の理論に基づき開発された商品で海外では医師の処方箋が無いと買えないことになっているものだが、日本ではドラッグストアで買うことが出来る。3月に一部商品がリニューアルして更にクオリティが高くなるとのこと。期待したい。

## 2位 サロンデュアプレシリーズ

TVチャンピオン美容師選手権で2年連続優勝を果たした多田亜樹博士がプロデュースするヘアケアシリーズ。抜け毛、細髪の原因となるシリコンを使わずに、キューティクルはもちろん内部のコルテックスまで補修する。ファン的心を掴んで離さないのは全商品に調合された独特の香りである。まるで香水のように時間が経つにつれ香りが変化していく。480円でシャンプーとトリートメントそれぞれ3回分のトライアルキットが販売されているので、試してみたい。

## 3位 ベにふうき緑茶

大正製薬の健康食品、リビタシリーズのうちの一つで花粉症対策としても有効。ベにふうき

とは、べにほまれと、ダーズリン系の紅茶を交配して生まれた紅茶用の品種で、新たな健康機能が目されている。渋み成分メチル化カテキンを多く含んでいる。甜茶や生姜もプラスし、心身のリフレッシュを促してくれる。

気になる商品はあっただろうか。是非、これからはまた違った視点でドラッグストアを楽しんでもらいたいと思う。